

推薦する取り組み	園館名
ミヤコタナゴの人工産卵床の開発および展示水槽への設置	相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら

## 推薦理由

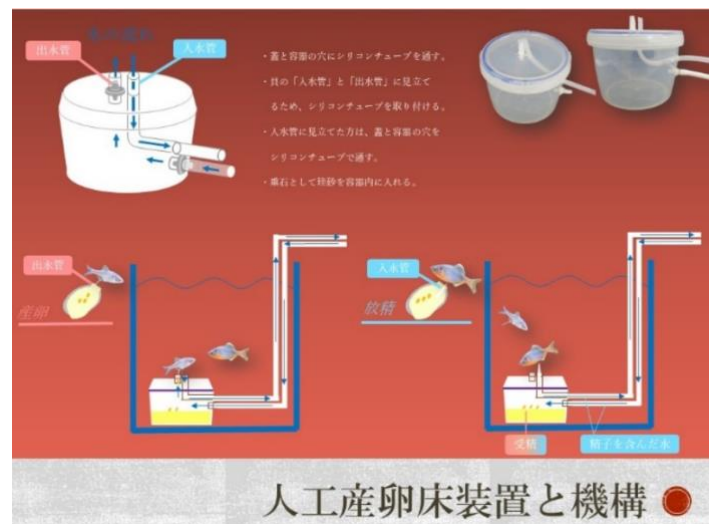
ミヤコタナゴは、繁殖に際して、イシガイ科などの淡水性二枚貝を産卵床として利用する生態を持ち、貝の中で受精から孵化、稚魚への成長が行われる。これまでにタナゴ類における飼育下での繁殖には、人工授精による人工繁殖法や、生きた淡水性二枚貝を用いた自然繁殖法によって実施されてきた。しかし、人工繁殖法では、用いる親魚に人為的な選択が反映されてしまうことや、自然繁殖法では使用する多くの淡水性二枚貝が絶滅危惧種に指定されているなど、方法によって問題点があるのも現状である。また、飼育下での繁殖には、予備水槽などの専用の設備で行われることが多く、展示水槽で飼育している個体は繁殖に用いられることが少ない。そのため、展示水槽で飼育している個体においても繁殖の機会を与えたいと考えた。

そこで、当館では、これらの問題点を補完する繁殖方法として、①ミヤコタナゴが自発的に本来の産卵・繁殖行動を行う、②野生下での淡水性二枚貝に負荷をかけ過ぎない、③どのような水槽でも設置が可能という3点に重点を置いて、人工産卵床の開発に取り組んだ。その結果、ポリプロピレン製容器を用いた人工産卵床を開発し、展示水槽において設置したところ、2019年5月27日から6月30日までの34日間で、合計67粒の卵を回収した。またその内7粒で孵化を確認することが出来た。

今回の人工産卵床において、孵化仔魚を得ることが出来たため、ミヤコタナゴの産卵から放精、受精まで一連の繁殖行動が行われ、その有効性が示された。また、今回用いた人工産卵床は電源があれば設置は容易で、多くの水槽に汎用が可能であり、これまで繁殖に寄与することの少なかった展示水槽などの個体にも繁殖に参加する機会が増えることが期待される。更に、展示水槽に人工産卵床を設置することにより、来館者もミヤコタナゴの産卵行動や卵を観察することもでき、普及啓発の面での展示効果もあった。



ミヤコタナゴの雄



人工産卵床装置と機構



人工産卵床の設置の様子



人工産卵床を覗く雌のミヤコタナゴ（繁殖行動）



産み付けられた卵